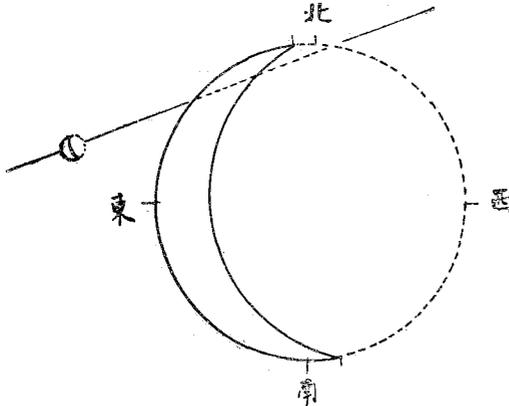


## 1923年1月13日の金星の掩蔽

1月13日の早暁、米國東部並に中央部の住民は稀な天文學的現象なる月に由る金星の掩蔽を目撃するの機會を有した。月に由る金星の掩蔽は地球全體として1餘り珍らしい現象ではないが、一地方のものに非常に稀である。例へば此地では55年以前の1877年の12月の初めにあつた以來一度も見ゆるものになかつた。

下の圖は記者が小望遠鏡で観測した掩蔽の外観を示めすのである。1月12日は天氣暗く曇であつた、そして午後10時30分迄その状態が續いた。其時より雲が散り始め、13日の午前3時30分迄空は晴れて來た。温度は非常に低く、諸星は恰も電氣の如く強く火花を發する様に見えた。



5時30分頃には殆んど経験なき観測者にも月は金星の眞上を過ぎるだらうと明かに思はれた。益々近くに物體は來つた。月は細き三日月(-3.5日)であり、金星は極大光輝を過ぐる事2週間にして約負4.3等の光を放ち換言せば牡牛座α(アルデバラン)の133倍細いてゐた。

最初の接觸は6時56分58秒

1923年1月13日の掩蔽の圖(月の内側は楕圓の筈)に始まり、6時59分55秒に金星は月の輝く端の背後に見えなくなつた。再出現は7時19分51秒に起り最後の接觸は7時21分48秒であつた。月の像は圖に於て示めた、そして此の尖端は8度16分丈北極から東してゐた。潛入は殆ど北東28度で起り、出現は殆ど北西2度で起つた。是等の價値は唯推算のみである。それは赤道儀式望遠鏡を使つてゐなかつたからである。少し霧が掩蔽の前半部にかゝつて居り、或範圍迄日光が月半部の間干渉したため Seeing は良好ではなかつた。使用の全時間北東部標準時(E. S. T.)である。

Lewis J. Boss.

## 新星に似た變光星

ユニオン天文臺のCircular第37號にインネス(Innes)氏が1900年に18時20.6分、-27度10分の位置を有する星を變光星と發表した。彼は光度をユニオン天文臺の光階で1916年の7月19日に11.8等21日に10.5等を與へてゐる。然るに十數の以前の寫眞板には其星は16等よりも微かであつた。

1922年7月アレキバ滞在中カノン(Cannon)嬢は獨立に新、舊寫眞板を比較して其の變光を發見した。現今ブルース24時、メトカーフ10時、バツヘ8時及び1時クック望遠鏡で撮影した150枚の寫眞を試験中である。ブルース板、バツヘ板は60分以上露出され凡て1916年前に撮影されたものであるが約16等の星が此の變光星の近似位置に存するのが見えるが確かな變光は示めてゐない。1916年7月17日には光度は12.1等で、同年10月19日には10.5等に増光した。極大光度9.2等は1917年7月17日であつて、其後光輝は最初速かに減じて同年同月27日には10.1等になつた。翌1918年の9月には11.5等1920年の9月には12.8等であつた。

スペクトル板は一枚も得られない。光度曲線は1919年(No. 4)の鷲座新星のそれに似てゐる様である。

## 琴座新星は誤報

天界1月號24頁所載琴座新星出現は彼處に註記せし如く、デンマーク國カリナ天文臺のT. Köhl氏によればルマニヤ國フルテヘンのM. Zvibel氏が1922年12月1日琴座に一新星を發見せし旨を報ぜしは誤りなる事を通知せり。

## 海蛇座Vの週期

104620海蛇Vなる變光星は非常に赤き星にして近年總ての變光星目録には不規則とされ居りしがハーヴアードのレオン、カンベル Leon Campbell が1905年以來觀測されたる12の極大及び極小を吟味せる所によれば週期は530日なりといふ。平均光度曲線は第二極小の存在を示すこの事なり。

## 1918年鷲座新星の現状

ハーヴアード天文臺にて爲せる觀測によれば寫眞的には10.2等眼視的には1.01等にて1918年6月より約11等減光し現在にては新星として爆發せる以前より少しく明るきに過ぎず。同新星を昨夏四時にて觀測せる所によれば星像は高倍率にて明らかに普通の星と異なりバーナード氏の記せる如く直徑2.3秒の圓盤像を有し遊星狀星雲の外観を示せり。(中村)

## 1922d Skjellerup's Comet の要素

メキシコ國立天文臺のChaco'n教授の計算せる同彗星の軌道要素次の如し  
11月25日 12月7. 18日の觀測より。

近日點經過	1923年1月3. 4938日 G. M. T.
近日點進度	$\omega$ 264° 12' 14"
昇降點	$\Omega$ 261° 55' 31"
軌道傾斜	$i$ 23° 21' 29"
近日點距離	$q$ 0.9248

## 中村君萬歲!!

在米國ヤーキース 山本一清

小生二三日前より寫眞を撮つたり、軌道を計算したりしておましたが、本日確かにNakamura 彗星 = Perrine 彗星 なる事を確めました!!! 詳細は後便に。

因に 發見の要素は次の如し (11月29,30日及12月1日の觀測から)

近日點通過	= 1922年11月 30.524日
近日點引數	= 175° 23' 45"
昇降點黃經	= 239° 53' 48"
軌道面傾斜	= 16' 32' 18"
近日點距離	= 0.07518 ((logq))

## 岡山支部二月通信

- 十日宮原幹事宅で「天界」研究会開催。
- 三日と十七日 岡山物理學會主催、左記の講演が 第六高等學校であつて、天文同好會員多數聽講、頗る有益の催しでした。
- 1、相對性原理 六高教授 雜賀修二郎氏
- 2、天體の形狀について 同 宮原 節氏 (幻燈使用)